

基本理念・将来都市像を表すキーワード（素案）

市民会議素案での表現

新市建設計画での表現

【定義】

- ・ 基本理念：まちづくりを進めるうえで大切にしたいこと（ポリシー）
- ・ 将来都市像：最終的に目指すまちの姿（ゴール）

【役割】

- ・ 市の基本的姿勢を端的に広く示す
- ・ 総合計画をはじめ、各分野における計画を策定・改定する際の拠り所とする（方向と姿勢の統制）

【検討上の留意点】

- ・ 上越市の歴史性や重要課題、重点プロジェクトとの関係性などを考慮した内容の検討
- ・ “言葉遊び”に終わらないよう、上記内容をふまえた表現方法の検討

1. 普遍的・基礎的なもの

生きがい

- ・ 市民1人1人が、地域の中で自分の居場所（存在意義）やライフワークを見出すことができれば、それは個人の生きがい（生きていることの喜びや幸福感）だけでなく、上越市全体の活力にもつながる。

地域への愛着と誇り

- ・ 上越市への愛着は、上越市を支えようとする力や、定住・Uターンの意欲を生む。
- ・ 市民が愛着や誇りを持てるものであれば、今は市外の人からあまり評価されていない地域資源であっても、いずれ魅力に昇華する可能性を秘めている。反対に、市民が愛着や誇りを持ち得ないものであれば、継続した魅力となりえない。
- ・ 愛着と誇りは、「上越市」を知ることから始まる。

持続可能性

「豊かさ、安らぎを育み、次世代につなげていく」

- ・ 右肩上がりの時代のように、投資に見合った効果が得られる保証はない。
- ・ 社会（人口、コミュニティ、地域への愛着と誇りなど）経済（市財政、地域経済）環境（生活環境、自然環境、地球環境）面からの持続可能性を基礎として考える必要がある。

2. 上越市の特性および取り巻く環境の変化から

自然とのつながりの再認識

「海に山に大地に」 「なりわいと文化あふれる」(文化=環境の文化+もてなしの文化)

- ・ 豊かな自然に愛着（アイデンティティ）を感じる市民は多い。
- ・ 一方で、農業を含めた自然の経済的価値や市民生活の中で触れ合う度合いは低下を続けている。
- ・ 自然は冷たくてあたたかい、厳しくてやさしい、災害と恵みをもたらすなどの「二面性」をもっているが、上越市の気候は特にバラエティに富んでいる。
- ・ 自然は、様々な知恵や人間性、感性を育み、磨き上げる力を持っている。
- ・ 学習（人間形成）には申し分ない環境であり、「知」の力が重要視される時代においては有利な潜在力である。

都市のテーマと市内各地区が担う機能の明確化

「自立都市」

- ・ 都市間競争時代の中で、上越市が都市としてあり続けるためには、都市機能や都市のテーマ性において周辺都市との差別化が必要。

- ・ それらを強化するためには、市内各地区を競合関係にするのではなく、それぞれの個性に基づいた役割分担をし、それぞれがその専門性を磨き上げていくことが必要である。

多様性の再認識と活用

- ・ 合併前上越市や旧町村は、歴史・自然・経済などの面からもともと深いつながりを有しており、いわゆる運命共同体とみなすこともできる。
- ・ 合併の意味は、これを前提とし、各地域が個性を發揮しながら、市全体の調和を目指すことにもある。
- ・ 多様性のあるまちは、一つの影響では大打撃を受けないことに加え、大きな可能性を秘めている。しかし、都市間競争の時代において、その「多様性」を活用しない限りは、淘汰され画一化されてしまう懸念がある。さらには、その恩恵がわかりにくいことから、市内においても市街地对中山間地といった対立構図（東京対地方の縮図）が生じることが懸念される。
- ・ 多様性を活かす総合力で勝負するためには、何らかの共通テーマを設定する必要がある。まさしく、上越市は一つの「テーマパーク」と形容できる。

交流都市、出会いのまち

「なりわいと文化あふれる」(文化=環境の文化+もてなしの文化)

- ・ 上越市が都市として存在し続ける（持続可能な地域経済を構築する）ためには、交流が不可欠。上越地方の中心都市としての機能だけを考えていれば、周辺からストロー現象で吸い取られる一方となる。
- ・ 一方で、人・もの・かね・情報の流れが盛んになれば、よいものも悪いものも運ばれてくる。
- ・ 人口減少社会を前提とした今、改めて人のもつパワー、人と人が出会うことで生まれる新たなパワーに着目したい。
- ・ 上越市には、地勢的・歴史的にそれを実現するためのポテンシャルがある。
- ・ 交流や定住促進の真髄は、地域にとっての「外貨」を獲得することではなく、上越ファン・上越サポーターをつくることととらえる。人間自身を最大の資源ととらえ、人を大切にすることで、人が人を呼び、英知を集め、地域活性化の源泉となっていく。外貨獲得は、その結果生じうる一つの結果と考える。

3. 課題解決プロセスから

人とのつながり（地域ぐるみ）

「市民のつながり、支えあいを高めていく」「みんなでまちをつくっていく」

- ・ 人間関係の希薄化がもたらす影響は多種多様であり、何らかの方法で対処する必要がある。
- ・ 教育や子育て、福祉、防災など、民間や行政ではなく地域コミュニティ内の多様な人々がそれぞれの個性を發揮して取り組むことが最大の効果を生み出す場合がある。
- ・ このようながんばる地域に対して、行政は“縁の下の力持ち”として取り組むことが必要(市民本位)。

ライフスタイルの提案

- ・ 利便性・快適性・効率性を追求してきたことによって、生じている社会問題は少なくないが、その追求は人間の本能でもあり、これ自体を抑制することはできない。
- ・ ただし、一面的な追求は、個人にとってもかえって非効率性や弊害を生じる場合がある。
- ・ 公のために個人を犠牲にするという考え方ではなく、個人にとっても公にとってもプラスとなるような新しいライフスタイルを意識した施策を提案する。(健康づくり、環境負荷の少ない生活など)